1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070200437		
法人名	松本市社会福祉協議会		
事業所名	夢ハウスおおくぼ		
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎2139－1		
自己評価作成日	平成22年7月28日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070200437&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク　医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成22年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山の中で自然に恵まれた環境を活かして、朝、夕に散歩に出かけます。毎週1回はドライブと買物に外出を計画します。皆さんが外出はとても喜び、ストレスを解消します。血圧も安定し健康状態も良好です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「夢ハウスおおくぼ」は、平成11年、松本市での第1号グループホームとして開設された。法人の機能を最大限に活用し、看護師の週1回の訪問による健康チェックや、管理栄養士による栄養・水分摂取の指導、ディサービスの施設を利用しての入浴、ワゴン車での外出支援などが行なわれている。住宅地から離れた立地条件ではあるが、福祉ひろばの利用や地域住民参加による避難訓練など地域との交流に努められている。ホーム周辺は山中の自然豊かな木立に囲まれ、毎朝夕、坂道の散歩を行なうことにより、利用者の足腰は丈夫で足取りも軽やかであった。暮らし全体の中では「食事」が重要な位置にあり、職員の工夫により限られた食費で豊かな食事が味わえるよう取り組まれ、一連の作業が利用者にとって張り合いや自信、喜びにつながるよう支援されていた。歯科技工士の職員による口腔ケアも行なわれ、利用者の食欲は旺盛で、楽しく活気のある食卓であった。

V．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) ＋ (Enterキー) です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所で、心豊かに安心して生活し続ける事ができるように職員は支援する。	事業所の理念である「心豊かに　共に生活し　安心と安らぎの場」は、開設当初に職員が話し合い作り上げたものである。この理念は玄関に掲げられ、管理者、職員に意識づけられ、ケアサービスを提供する上で常に立ち戻る根本的な考えとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し町会費を納入し、地域の清掃など、地域の一員として参加している。	立地条件により隣接した民家がほとんど無く、日常的な付き合いは難しいため、事業所は町会に加入し、地域清掃や福祉ひろばへの参加などによる交流に努められている。ハーモニカボランティアや、実習生の受け入れ等も行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回、地域の福祉ひろばの行事に参加、敬老会や文化祭等に参加している。また、人材育成として実習生の受入れを常にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実績、取り組み状況を報告し話し合い、意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、町会長、民生委員、市担当者等の参加のもと、本年度は2ヶ月に1回開催されている。行事日に合わせて開催することもあり、参加者に利用者のケアサービスの実際を知っていただく機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回介護保険派遣相談員が訪問、市の担当者も必要時には訪問している。	運営推進会議には、高齢福祉課ケースワーカーが出席し、利用者のニーズ等を共有している。市担当者には事業所の現場の実情を伝え、実直に対応してもらえるような連携が図られている旨うかがった。	

外部評価結果(夢ハウスおおくぼ)

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の自由を束縛しないように常に問いかけをして、安全面に配慮して自由な生活ができるように配慮している。	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを認識し、利用者が外出しそうな雰囲気を察したら、さりげなく声をかけたり一緒についていくなど、安全面に配慮した自由な暮らしを支える取り組みがされていた。	すべての職員が「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」とその弊害を理解することは、利用者が抱えている根本的な不安や混乱を、理解したり取り除くことにもつながる。今後、研修等へ積極的に参加し、職員の更なる理解浸透に向けた取り組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての理解を図り、職員による虐待の防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者4名が日常生活自立支援事業を利用しており、1名は成年後見制度を利用している。1名が成年後見制度を依頼中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や対応可能な範囲について説明を行い了解をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも話してもらえる雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い反映させている。	利用者が思いを表出できないことを職員は理解し、嫌がることを表情や日頃のかかわりの中で把握するなど、利用者主体の運営を心がけている旨うかがった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりしている。ノートにも記入してもらい、日常業務に反映させている。	管理者が日常的に介護の状況や実情を把握することで、職員との信頼関係が構築されている。職員の意見や要望はミーティングで話し合い、気づきやアイディアが運営に採り入れられている旨うかがった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向に沿うように職場環境、条件を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に出席できるよう勤務表等を考慮しています。研修報告を全員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまり参加はしていないが情報は提供している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を受け止めて、この場所が安心して暮らせる場所だと思ってもらえるように対応に気をつけます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や経過を聞くようにしている、事業所としてどの様なお手伝いが出来るか相談する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の思いを確認し、支援に必要なサービスにつなげるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活する場所との認識が職員にあるので、お互いが協働しながら穏かな生活ができるように声かけしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人を一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆にはお坊さんに法要をお願いしたり、入居者の家族のお墓参りにいきます。知人との電話や手紙の支援をしています。	お盆、お彼岸には、住職による位牌の法要が行なわれ、知人、友人への電話や手紙など、つながりを継続できる支援が行なわれていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に話をしたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせるように、職員が調整役となって支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所や死亡が退所理由なので関わりがなくなる場合がある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表などからその真意を推し測ったりそれとなく確認するようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握しようと努めている。少人数のグループホームであるため、特に利用者の人間関係に配慮した取り組みがされている。	

外部評価結果(夢ハウスおおくぼ)

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活暦を知れば、その人の言語や行動も納得できる、昔の事を話せるような言葉かけを工夫する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている、家族には訪問時に介護計画を提示して了解してもらっている。	職員全員で関わり、気づいた点を出し合い、それをもとにケアマネージャーが計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日のケア記録に記入している、気づきや注意点は申し送り帳に記入し、情報を共有して、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、通院等の必要なサービスを支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回福祉ひろばを利用して、カラオケを楽しんでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医が定期的に往診をしてくれる、その他必要に応じて通院の支援をする。	月に1回のホームの協力医の往診と、毎週1回の看護師の訪問により、定期的な体調管理が行なわれている。また、利用者の状況に応じて、通院等の支援を行い家族に報告がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回看護師が訪問し、血圧の測定をします、入居者の身体に変化があった時は主治医につなげます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関へ提供し、御家族と相談しながら支援をします。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応できる体制になっていないので、現状で出来る方法を考える。	職員体制や、民家利用のためハード面での整備が困難であるため、重度化や終末期を迎えた場合は他施設への住み替え等の対応をされている。	利用者と家族にとって大きな不安のひとつは、重度化した場合の対応のあり方である。重度化の体制が整っていない場合でも、利用者、家族のニーズを汲み取り、最大限の支援方法について職員間で話し合うことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は救急車を依頼して病院に搬送する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認をして、定期的にも事業所として避難訓練を行っている。	年1回、消防署や地区の住民の立会いの下、訓練を行っている。月1回程度は事業所独自で訓練を行っている旨うかがった。	事業所の立地が住宅地から離れた場所であるため、災害時の地域の支援体制には限界がある。今後も、利用者の状況に応じた避難誘導ができるよう、夜間や様々な災害を想定した避難訓練を繰り返すことを望む。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	日本語が良くわからない、上手くコミュニケーションが取れない方には、耳を傾け様子を見ながらケアを行なっていた。一人ひとりの誇りを傷つけないような言葉や対応に配慮されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、自己決定しやすいように声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人が決めて着替えてくる、また、定期的にカットハウスに通う等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買物にも一緒に行き、食べたい物を購入できる様にしている。調理、盛り付け、片付け等、利用者と共に行い同じテーブルで食事をして楽しく食事ができる様にしている。	買い物に行った際に、利用者と相談しながらメニューを決めたり、利用者の個々の力を活かした一連の作業により、利用者の張り合いや自信につながる支援がされていた。食を大切にする職員の取り組みにより、利用者の食欲は旺盛で活気のある食卓となっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回管理栄養士が訪問して、栄養指導、水分補給の指導をして、体重管理をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員に歯科技工士がいるので、その職員の指導により、口腔ケアをしている。義歯洗浄機も購入し義歯の手入れをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の生活リズムに沿ってトイレに行けるように支援している。気持ちよくトイレで排泄ができるよう、トイレの掃除をしてトイレの清潔を保っている。	排泄は自立されており、トイレは清潔で使いやすく整備されている。失禁時も、羞恥心や不安を軽減するような対応に配慮されている旨、うかがった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事と水分補給を行い、便秘対策をしている。体を動かす事の大切さも意識して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日と時間帯は決まっている。洗髪と背中の洗身は手伝うがその他は自分で洗っていただく。暑い日に希望の人はシャワーを使って汗を流してもらう。	職員の体制により、入浴の時間帯は決まっている。入浴を拒む方は無く、安全のための見守りや対応がされている。大きなお風呂に入りたい、という希望に添うため、ディサービスの施設を借りての入浴支援も行なわれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のペースで昼寝をしている。夜も熟睡できるように、日中に散歩に連れ出している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケース記録にファイルして、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡して服薬を確認する。		

外部評価結果(夢ハウスおおくぼ)

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや縫い物など、本人に出来る仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。毎週ドライブに出かけたり、地域の行事への参加など相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お弁当を持って戸外へ出かけるなど、毎週、機会を設けて積極的に外出している。	天気の良い日には、午前中に戸外を散策されている。日常的な外出により、利用者の足腰はしっかりとし、生き生きした表情が見受けられた。週に1回は、車での買い物等の外出支援も行なわれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の時、欲しい物は自分で買えるようにしている。少額のお金を持っている人もおり自分の財布からお金を出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を施設に転用しているので、家庭的な雰囲気がそのまま利用されている。	民家と広い庭園を利用し、自宅の延長としての環境が整えられていた。観葉植物や熱帯魚も配置され、木のぬくもりのある懐かしい空間で、利用者はゆったりと過ごされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋が個室であり、仲の良い人同士は部屋のベッドに座り話をしている。一人になりたいときはふすまを閉じている。		

外部評価結果(夢ハウスおおくぼ)

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持ってきたり、信仰している神様を持ち込んだり、自分の過去に関するものを持ち込んでいる。	居室には、仏壇や使い慣れた箪笥、家族の写真や本などが持ち込まれ、利用者がその人らしく落ち着いて過ごせるよう工夫されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、廊下、トイレの手すりの設置、玄関の椅子の設置など、転倒防止に取り組み配慮している。		